

【第3回 市民測定所まつり in 呉竹】

ご協力ありがとうございました！

10月12日に開催しました測定所まつりへのご参加およびご協力、本当にありがとうございました。お子さんも含め、約100名の方にご参加いただきました。ご協力いただきましたみなさまに、厚くお礼申し上げます。

今の国や福島県の方針は、「帰還困難区域（年間50ミリシーベルト以上）」を除く全地域を2017年3月までに解除し、区域外避難者への住宅提供も打ち切るという方向です。まるで放射能が消えてしまったかのようなキャンペーンも強まっています。

当測定所は、原発事故避難者の方の声に応え、避難者の方とともに歩んできました。だからこそ、測定を通じて放射能汚染が広がっていることを示してきました。今回のまつりでも、上映や講演会、写真展などを通じて、放射能からの避難・移住の大切さを訴えさせていただきました。

そして、今回のまつりの意義は、「新たなところへの広がりを作り出した」ところにあると思います。今年できた京都北部測定所さん、もうすぐ開所する「近江測定所」さん、首都圏から滋賀県に避難してきている方など、大きな関心をもって参加していただいたことです。今後につながる展望を見いだした「まつり」となったと思います。

その一方で、当測定所が岐路に立っているのも事実です。測定依頼も減り、会員も減り続ければ立ち行かなくなってしまう現実的な問題があります。市民による市民のための測定所です。ぜひみなさま、いっそうのご支援をよろしくお願いいたします。

2015年10月31日 京都・市民放射能測定所

代表 奥森祥陽

事務局長 佐藤和利

10月12日 第3回市民測定所まつり 大成功！



【測定所ミニ講演会】

『いま、市民の測定所が果たす役割とは？』をテーマに、冷や汗をかきながら講演させていただきました。「わかりやすかった」「(測定所を)ぜひ続けてください。」など、うれしい感想をいただき感謝です。(佐藤)

【無料測定会】

測定依頼は3件でしたが見学の方が想像以上に多く、熱気溢れる無料測定会となりました。

皆さん真剣に話を聞かれ、放射能問題の分かりにくさ、それを可視化する放射能測定の必要性を改めて感じました。(担当 楠本)



【河野康弘さん ワッハッハ♪コンサート♪】

「楽しかった」「大変よかった」「まだの方はどこかで是非」など大絶賛の感想がよせられています。測定所支援のチャリティコンサートまで呼びかけてくださっている河野さん、本当に感謝です。

【飛田晋秀さん写真展】

写真展も30人の方が見に来てくれました。

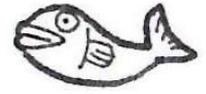
「どれを見ても胸の痛くなる一枚一枚ですが、多くの人にみていただきたいと感じました。」「高い放射線量で、ため息」などの感想がありました。



【ほっこりカフェ】

丹波橋測定室がハロウィン一色に。

「なごやかで家庭的でよかったです。」「工作・色塗りが大変楽しかったです。」「作業で頭を空っぽにしたところに皆さんと色々話せて清々しい気分でした。」「お子達の仮装も可愛かった！優しい心地で子連れの帰り道も和やかでした。」などの感想がよせられました。記念作品？は今も丹波橋に飾ってます。



映画の感想♪

「チェルノブイリの時間経過を経ての庶民の生々しい現状や、関東圏の子供たちの一時避難とその母たちの事実の姿にあらためて、放射能汚染の酷さを実感できました。」

「(若い人が) 保養することの重要性がよく分かりました。」

「選択する人々の苦悩が私にしっかり届いてきました。自分だったらどうしたんだろう、どうするだろう。『福島の子どもたちは青空の下で元気に飛び回っています』と笑顔でテレビ画面に写っていたアベさん(安倍首相)のあの声が、悪マの声で耳に響いて くやしくてたまりません。」

「国と東電の起こしたことは、重大な犯罪だとあらためて思います。私たち一人一人が告発し続けなければ、そして現在の戦争法制はじめ悪法の数々とたたかい続けなければ。」

まだ見てない方、各地で上映会が開催されています。
ぜひ見てくださいね♪

測定所ミニ講演会『いま、市民の測定所が果たす役割とは?』(抜粋)

情報化社会の中では、情報が発信されなければ、ないことにされてしまう。原発事故・放射能汚染に関する記事は驚くほど少なくなった。これでは放射能が消えたように錯覚させられてしまうのではないか?

政府は、居住制限区域(年間被曝線量が20~50ミリシーベルト)まで2017年3月に解除しようとしている。ここはどんな土地なのか。飯館村の細川牧場の突然死した馬の心臓を京都測定所で測った時、セシウム137と134合算で106Bq/kgだった。この牧場では今年7月に31頭目の馬が死んでいる。阪神測定所が調べたところ、牧場の土はセシウム137だけで22,700Bq/kg、馬糞がセシウム137だけで2,670Bq/kg、牧草がセシウム137だけで78.1Bq/kgあった。

今年8月31日に発表された福島県民健康管理調査で、甲状腺がんが137例に達した。今年9月の写真週刊誌に、がんの手術をした20歳の女性が証言が載り、悲痛な体験を語っている。

今月10日の新聞には、米原子力空母「ロナルド・レーガン」の元乗組員250人以上が、東日本大震災時の「トモダチ作戦」で浴びた放射能による健康被害を訴え、提訴した記事が載った。すでに2人が骨膜肉腫や急性リンパ球白血病で亡くなっている。

原子力規制委員会は今年7月8日、原発事故後の作業員の被曝上限を100ミリシーベルトから250ミリシーベルトに引き上げることを提案。「世界で最も厳しい水準」どころか、電力会社が容易に原発再稼働へ。

環境省は、燃やせない汚染土をセシウム濃度で分別し、低濃度の土を埋め立てや建築資材として利用できるようにする事業研究を助成。被曝拡大の政策を進めている。

京都測定所は、原発事故避難者とともに歩み、市民感覚、人権感覚を大事にしてきた。これからも測定と帰還政策批判をむすびつけ、勉強会や今回の測定所まつりのようなイベントを開き、情報を発信していく。

スタッフから一言

「最初はどうか心配でしたが、とてもよい祭りでした。改めて、京都測定所の良さが伝わってくる内容でした♪」（まつり司会 速見）

「まつりをすることで、またつながりも深まり、新たなつながりもできたと思います。その一つ一つ丁寧に広げられたらと思います。」（菊池）

「打ち上げの異常な盛り上がりで私は大成功だったと思っています。本当に楽しかったです。」（福島）

「笑顔つながる会の商品も販売でき良かったです。内容も充実し、盛況のようで良かったです。」（高木）

「すごく居心地の良い雰囲気になりました。おおらか？和気あいあい？なんというか懐の広い感じ。こういう空気のグループ(?)は貴重な気がしました。」（楠本ひ）

「なんと言っても河野康弘さんのコンサートが素敵だったと思います。」（神保）

「十数回の測定とイベントに参加し、測定結果を説明し理解してもらい難しさを感じています。」（藤原）

測定所全体ミーティング

★11月22日(日) 16時～17時30分
丹波橋測定室。関心のある方、大歓迎です。

広がる測定所なかま

9月27日、秋晴れの近江八幡市へ、新規測定所立ち上げに燃えるなかまを励ますべく行ってまいりました。JR近江八幡駅に近い生協建屋の一角に、11月29日に開所予定です。測定方法の伝授や、検体の詰め作業のトレーニング、開所式の打ち合わせなどタイトな時間を共有してきました！近江の測定所さん、ともに進みましょう！（福島）

報告おそくなりましたが8月23日には『京都北部・市民放射能測定所 たんぽぽ』さんが無事開所されました。カンパへのご協力ありがとうございました。（奥森）



会員のみなさまへのお願い

おかげさまで、第三回測定所まつりを無事成功裏に終えることができました。

事務局一同、大変感謝しております。

しかし、今後も引き続き測定所の運営を続けていけるかどうかは、みなさまのご協力をお願いするしかありません。

まだの方は会員の継続（年会費納入）を、心からお願い申し上げます。

なお、右記の口座に年会費を振り込んでいただいた方には、後日新しい会員証をお送りいたします。よろしくお願いいたします。

◇年会費（会員になった日から1年間）

正会員 4千円

サポート会員 2千円

◇以下の口座に振込んでください。

・郵便振替口座

00990-8-147255 京都市民測定所

・ゆうちょ銀行

14440-6770961 京都市民測定所

（他銀行からの場合）

店名 四四八 店番 448

普通預金 0677096 京都市民測定所



京都・市民放射能測定所 事務局

〒612-8082 京都市伏見区両替町9丁目254

北川コンサイスビル203号

TEL/FAX 075-622-9870

E-mail shimin_sokutei@yahoo.co.jp

<http://nukecheck.namaste.jp/> <http://crmskyoto.exblog.jp/>